

# 環境学習施設ネットワーク

## NEWS

NO.3

平成18年3月春季号

### 環境学習施設ネットワークの定例勉強会始まる

第一回テーマは「環境学習施設とマーケティング」  
すぎなみ環境情報館

昨年末に発足した環境学習施設ネットワーク(ELCNet)の本格的な活動となる定例勉強会がスタートいたしました。第一回は、すぎなみ環境情報館にて「環境学習施設とマーケティング」をテーマに、20名以上の参加者で行われました。

当日、参加できなかった多くの会員の皆様のために誌上セミナーの形式で再現いたします。

渋谷環境省環境教育推進室長の挨拶

国連の「持続可能な開発のための教育の10年」が始まっています。環境教育は、環境という言葉は狭く捉えるより、環境の切り口を広く捉えていくようになってきており、「環境」が「持続可能性」という言葉に置き換わっていくような方向性になっています。

先般、環境大臣が自ら学校に行って出前授業をしました。その際に小道具をいろいろなところから調達しました。例えばトランクの中に漂着ゴミが入っている展示物を貸し出ししてくれるNPOがあったり、探せばいろいろあるものです。すでにあるものを活用すれば、輸送料と保険ぐらいで利用できます。



勉強会に先立ってご挨拶いただいた渋谷室長

環境学習施設ネットワークで、そうした展示や教材の情報を集めて、活用していくといいと思います。環境学習施設が集まるこういう機会があることは、とても重要なことだと思います。ありがとうございます。

小山すぎなみ環境情報館長のお話  
〔環境情報館の概要と経過〕

環境情報館というと、施設があってその中にいろいろな展示物が飾ってあるという印象を持つ方もいると思いますが、この環境情報館は環境を学習する施設ということになっています。

したがってハードの面ではほとんど見



講師となった「すぎなみ環境情報館」小山館長

ていただくようなものはありませんが、ソフトの面ではいろいろ工夫してあります。環境学習を重視した施設は、もっと区民になじめる施設であった方がよいという意見もあって、いまだに課題が多く、その解決に取り組んでいるというところ

です。  
杉並区では、この施設のほかに高井戸というところに、杉並区リサイクル広場高井戸という施設を持っています。ここでは、家具や衣類をリサイクル販売しています。

環境情報館が設置された経過ですが、平成6年の4月に「杉並リサイクル協会」という任意団体ができました。当初は財団法人化を目指していましたが、そのためには多額の資金が必要なので、とりあえず任意団体の形で作りました。平成11年の11月に「リサイクル広場高井戸」が設置されました。当初は家具のみの扱いでしたが、さらに13年10月には、衣類の取り扱いも始めました。15年2月にはリサイクル協会を発展的に改組して、NPO法人杉並環境ネットワークが発足しました。私は、その法人化を担当しました。その後、この館が設置されて、杉並環境ネットワークが管理運営を引き受けることになったわけです。

この建物は複合施設で、四階にすぎなみ環境情報館、一階に福祉事務所、二階に児童館、三階に消費者センター、五階に社会福祉協議会などが同居しています。教室が横の方にありますが、そこで環境学習をするようになっていました。さらに一般団体や一般区民の交流の場、行政事務部門の事務所となっています。

施設の概要は、開設は16年4月1日。規模は全体でRC鉄筋コンクリート地上5階地下2階、情報館部分が467平米になっています。建設費は約30億円です。

〔問題点とその解決のために〕

16年4月にオープンした当初、区民の方に来てもらえない施設でした。工夫の結果、来場者数が大幅に増加しました。16年度と17年度を比較すると、1月末の段階で29,000人も来場者が増加しています。いろいろなイベントなどを行って来場者数が増えて参りました。

4月にオープンしてから8月までの間に来館者が少なくて、区議会など各方面からおしかりを受けました。でも、なかなか名案が浮かびませんので、民間のコンサルタントに研究をお願いしたわけです。

その結果は、

- 1 「何のための・誰のための」施設か一向にわからない、
2. 児童館や環境情報館など各施設のコンセプトや目的意識が見えない、
3. 環境情報館としての実体が伴っていない、
- 4 体験学習施設がない（環境学習ということに重きを置いたため、それが後回しになってしまった）、
- 5 顧客サービス意識が欠如している、
- 6 専門団体と一般区民との感覚がズレている（この施設の建設にあたって多くの

方の意見を聞きましたが、環境問題の専門家に意見を聞いたので、普通の家庭の主婦、おじいさん・おばあさん、子供にはなじめない施設になってしまった)、  
7 学習プログラムの未整備、一般の方々に対するあまり整備されていない、という指摘でした。

これを受けて、4月にオープンしたものを12月には大きな方向転換をしました。コンセプトとして「次代を担う子供たちや、あと一押ししてあげれば環境問題の課題に気づく人たち」を掲げ、具体的に総合学習で活用できる施設、子供と親がともに学習できる施設、環境問題が重要であることを知っているが市民活動は面倒くさそうという人を対象としたものに軸足を移していくことになりました。

改善策として実施した点は、

一階の受け付けに職員を配置した。以前は、この施設が不特定多数を対象にした施設という認識がなかったようで、来訪者は目的を持ってきているという思い込みが受け付け職員を配置しないということにつながっていた。

一階のホールを区民ギャラリーとして解放した。

三階の情報資料コーナーを改善した。環境に関する本を集めてあったが、専門図書が多く、一般向けの図書が少なかった。専門家の間では評価が高かったが、一般の方には評判が悪く、本の貸出しは、一日平均1人にも満たない状態だった。本を整理して、小イベントホールとして活用し、今日は「環境写真コンクール」の写真を展示している。

杉並区には環境団体の横の連絡組織がなかったので、これを機会に区内28団体の連絡会を立ち上げた。行政からの連絡



すぎなみ環境情報館も入る複合施設「あんさんぶる荻窪」

をしたり一定の成果をあげている。

学習プログラムの充実という点では、様々なプログラムをとり入れ実施している。

行政部門全体の連絡会も設置し、消費者センターや児童館などと、行事の開催などの調整をしている。

こうした努力の結果、平成17年は16年に比べて月あたり3,000人から5,000人くらい来場者が増加している。さらに講座への参加数を比較すると、1講座当たりの参加者数は、平成16年度は1講座当たり12.5人であったが17年度は19.6人に増加している。

〔今後の課題〕

学校との連携を強めてくこと…。ヤゴの救出など、学校の総合学習のお手伝いをしている。環境という言葉は、つかみ所がないので、学校は、総合学習で何をやったらいいのか困っている。私たちのところにくると、具体的に成るといって先生方から感謝されている。

普及啓発活動を充実するため、「集客事業」を実施をしていく…。環境情報館の活性化イベントとしてフリーマーケットなどを実施し、普及・啓発している。また高校や大学と連携して

イベントを実施している。こういうイベントをすることによって、多くの人を集め、環境問題を考える切り口にしてもらうという意図がある。また、音楽祭も活用している。荻窪音楽祭は従前からあった商店街の音楽祭だが、環境情報館を全館開放して実施することにしている。

体験設備の充実は施設が既にできているのでなかなか難しい。今後の課題となっている。

(質問) 講習会の企画をするのは誰かですか？

(回答) 環境ネットワークには、委員会が4つあります。(1) 普及啓発委員会、(2) 企画調査委員会、(3) リユース事業委員会、(4) 広報委員会です。その4つの委員会があるんな事業をやっています。講習会・講座は、普及啓発委員会が、そのほとんどをやっています。企画立案や年間計画からすべてやっています。定期的に委員会同士で会合を持って、そこでお互いの事業を評価し合っている。

(質問) 昨年度に比べ、講座数が減っていますが、なぜですか？

(回答) これは、講座を評価して、いろいろな要素を加味して、講座の数を減らしている。講座・講習会の数を29減らしている

にもかかわらず、参加者が187名増えている。

(質問) 利用者の問題意識は育ったと思いますか？

(回答) よく聞かれる質問ですが、ひと言では、答えられない問題です。環境は息の長い問題だ。「少数の活動家の方がたくさんの方の事業や活動するよりも、大勢の方が少ない活動すること」が重要だと思っている。

(質問) ボランティアに対して半日500円の謝礼をしているそうですが、それで正当な評価をしていると思いますか？

(回答) 当初は、無償でしたが、半日500円という制度を作りました。これで正当な評価をしていないという考え方もありますが、「お金のためにやっているわけではない」と怒られてしまうようなこともあります。

(終)

今回より「施設紹介」のコーナーを設けることとなりました。施設から施設へとバトンタッチして行く”施設の輪”の形式で紹介してまいりたいと思います。第一回目は目黒区の施設をご紹介します。

現在、目黒区内には2ヶ所に環境学習施設が設置され、活動を行っています。目黒エコプラザは平成5年、平町エコプラザは平成10年にオープンし、当初はどちらの施設もリサイクルプラザの名称でしたが、昨年2月にエコプラザに呼称が変更されました。両施設とも図書コーナー、不用品情報コーナーなどが設置されている他に、平町には展示体験コーナー、目黒には服のリフォームコーナーなどが常設されています。イベントにつ



上は「目黒エコプラザ」、下は「平町エコプラザ」

いてもフリーマーケットや講習会、シンポジウムなどの情報を収集・提供しています。両施設とも区からの委託事業としてエコライフめぐろ推進協会が管理運営を担っています。なお、推進協会では施設の管理運営だけでなく、環境配慮活動

促進のための支援調査研究事業や廃食用油・古着・古布の拠点回収事業などを手掛け、循環型社会の形成を目指しています。なお、協会や施設に関して詳しくお知りになりたい方は次のホームページへ <http://park15.wakwak.com/~meguro.3r/>

### 【ELCNet事務局からのお知らせ】

**第二回の研究会は、「指定管理者制度」をテーマに、4月14日(金)午後2時から東京都新宿区の「エコギャラリー新宿」を会場にして行います。**

「エコギャラリー新宿」とは、新宿区立環境学習情報センターと新宿区立区民ギャラリーの複合施設の愛称です。NPO法人新宿環境活動ネットが「指定管理者」として、管理運営をしており、多くの地域団体や事業者、行政、学校等と連携しながら市民参画型の「協働」による公共施設運営に取り組んでいます。

指定管理者には、事業の「運営」ばかりでなく施設の「管理」業務が求められますが、高度の専門性を求められるため、負担が大きいと言われていています。また、指定管理者は限られた資源を活用して、どのように最大限のサービスを提供していくかの手腕が求められます。

NPO法人新宿環境活動ネットは、公募による選定を経て、2004年4月1日より、施設管理運営にチャレンジしており、指定管理者の先駆けです。今回は、崎田裕子代表理事の話を伺いながら、選考の過程、運用初期に直面した課題とその克服方法、現在の課題などについて、ディスカッションを進めていきたいと思っております。この機会を見逃さぬよう、一人でも多くの方のご参加をお待ちしております。

### 〔申込・問合せ方法〕

電話、FAX又はメールにてお願いいたします。



### 〔会場、及び会場までの交通手段〕

JR・小田急線・京王線「新宿駅」西口から徒歩約15分

東京メトロ丸の内線「西新宿駅」から徒歩約10分

都営大江戸線「都庁前駅」から徒歩約5分

新宿西口バスターミナル(17番乗り場)から乗車し「十二社池の下」下車徒歩約1分

### 【編集後記】

“Spring has come.” と思いきや、翌日は冬物コートをしっかり着込んで出勤といった日々が繰返されています。このニュースが皆様のお手元に届く頃には”桜前線”の話題に移っていることを楽しみに作業を進めています。一日も早く「春よ、来い」。

【発行】環境学習施設ネットワーク

事務局：ダイナックス都市環境研究所内

Tel.03-3580-8221 Fax.03-3580-8265

【編集】エクシーズ株式会社

Tel.03-3882-8446 Fax.03-3882-8437